vol.73
2022.4
H-SATT

農林水産省 近畿農政局（兵庫県拠点）

農政局だより@ひょうご

〒650-0024
神戸市中央区海岸通29 神戸地方合同庁舎
TEL:078-331-5924　email:hyogo28_hsatt_kinki@maff.go.jp

『つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～』に選定された県内7棚田7団体に認定証が授与されました

	市町名	棚田名	団体名
1	養父市	宮垣の棚田	宮垣棚田振興協議会
2	養父市	能座の棚田	能座地区
3	養父市	別宮の棚田	別宮地区
4	宍粟市	山田の棚田	宍粟市一宮町山田自治会
5	宍粟市	飯見の棚田	飯見夢むら棚田の会
6	多可町	岩座神の棚田	岩座神
7	香美町	うへ山の棚田	香美町

令和４年２月に選定された「つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～」の認定式が令和４年３月25日（金）にオンライン形式で行われ、農林水産大臣からの祝辞や選定委員長の記念講演が行われました。

兵庫県では、3月29日（火）ラッセホールにおいて認定証授与式が開催されました。

式では、近畿農政局から7つの認定団体に認定証を授与した後、各団体から棚田での取組についての紹介がありました。

認定団体からは「認定されたことは嬉しく、今後の活動の励みにもなる。地域の方々と協力し、引き続き棚田の維持に努めていきたい。」との声が聞かれました。

認定団体を始め関係者と一緒に記念撮影

詳しくは　農林水産省HP棚田地域の振興について
https://www.maff.go.jp/j/nousin/tanada/tanada.html

「令和3年度飼料用米多収日本一」近畿農政局長賞を 汐谷　保氏（神戸市）が受賞

近畿農政局は、令和4年3月25日（金）、神戸市において『令和3年度飼料用米多収日本一』近畿農政局長賞の表彰式を開催しました。

「飼料用米多収日本一」は、飼料用米生産農家の生産技術の向上を目指し、多収を実現している先進的で他の米生産農家の模範となる経営体を表彰し、その成果を広く紹介するものです。

兵庫県内からは、神戸市の汐谷 保氏が、近畿農政局長賞“地域の平均単収からの増収の部”の受賞者に選定され、賞状授与の後意見交換を行いました。

受賞された汐谷様ご夫妻

詳しくはこちら
https://www.maff.go.jp/kinki/press/sinko/attach/pdf/220322-1.pdf

キラリ☆現場にて

～美方大納言小豆で未来へつなぐ！伝統と故郷(ふるさと)～

〈aoite.azuki.base・三浦由紀子さん〉

美方郡香美町で美方大納言小豆の栽培・カフェ経営をされている「aoite.azuki.base(アオイテ・アズキ・ベース)」の三浦由紀子さんにお話を伺いました。

－美方大納言小豆を選んだ理由は？－

令和3年3月まで香美町の職員をしており、地域特産物である「美方大納言小豆」の生産を振興をする立場でした。
しかし、後継者の高齢化が進んでいることもあり、作付面積はなかなか伸びませんでした。

「美方大納言小豆を絶やしたくない」という想いから、自ら小豆栽培を始め、あんこを使ったメニューを提供するカフェを開店しました。この取り組みを広げていき、伝統や農地の保全方法を若い方々に示していければと思います。

あんこたっぷり！『あんバタートースト』

－aoite.azuki.baseについて－

美方大納言小豆に特化したカフェは令和4年１月にOPENしました。
メニューは、おはぎ・あんバタートースト・あんバターコッペ・スコーン(あんこ添え)の４種類で、夏には新メニューの追加も検討中です。

面積は、令和3年産の10aから今年は20aに拡大する予定です。
さらに、今年から、新たに地域の農家さんにもお願いできることになりました。
ほ場で作業をしていると、地域の農家さんが見に来てくださり「今年はちょっと増やしてみる」「今年は新たに作ってみようかな」といったお声も聞けるので、やって良かったと感じます。

－今後の目標や挑戦したいことは？－

将来的には、地域の農業者や事業者と協力して「美方大納言小豆」を推進し、地域おこしに繋げていければと考えています。

また、香美町は稲作中心の地域のため、フードメニューの材料の一部を、小麦粉からを米粉に移行できないかとも考えています。実現には、地域の水稲を米粉に適した品種へ切り替えてもらったり、米粉への加工施設の準備など一人では難しい課題は多数ありますが、地域の御協力を得て、前向きに進めていきたいと思います。

空き家を改装した落ち着きのある店内

美方大納言小豆とは

たじまの北西部に位置する美方郡で生産される「美方大納言小豆」は、白いさやで粒が大きいという特長があります。また、色鮮やかで煮崩れしにくいことから、特に和菓子に適していると好評で、著名な老舗和菓子店などからも高く評価されています。（JAたじまHPより https://www.ja-tajima.or.jp/tokusan/yasai/azuki.html）

令和３年度『近畿地域未来につながる持続可能な農業推進コンクール』の受賞者決定

～近畿農政局長賞に　笠形地域づくり協議会（市川町）～

近畿農政局では、持続可能な農業の確立を目指し、意欲的に経営や技術の改善等に取り組んでいる農業者等をGAP部門、有機農業・環境保全型農業部門に分けて表彰しています。

兵庫県からは、**笠形地域づくり協議会（市川町）**が**近畿農政局長賞【有機農業・環境保全型農業部門】**を受賞されましたのでお知らせします。

有機農家の皆さん

笠形地域づくり協議会について

有機農業実践者と、地域住民、金融機関、役場のメンバー等で構成され『笠形地区を有機の里にして地域を活性化していきたい』という想いから、平成28年に協議会を設立。 愛称を「笠形オーガニックファーマーズ」とし、有機農業体験、農家の視察研修、料理教室、CSAなど様々な取組を行い、有機農業を軸とした地域づくりを推進している。

「笠形コーン」もぎ取り体験

詳しくはこちら　https://www.maff.go.jp/kinki/press/kankyo/220325.html

令和４年度水田活用の直接支払交付金の拡充・見直しについて

先般、令和４年度予算が成立し、水田活用の直接支払交付金は3,050億円と前年同額となりました。

この交付金は米政策改革の定着と水田フル活用の推進に向け、食料自給率・自給力の向上に資する麦、大豆、飼料用米等の戦略作物の本作化とともに、地域の特色を活かした魅力的な産地づくり、高収益作物の導入・定着等を支援するものですが、令和４年度において、一部拡充・見直しが行われました。

交付対象水田の見直し

・現行ルールの徹底（水張りができない農地（畦畔や用水路がない農地等）はH29年からの現行規定でも交付対象外）
・転換作物が固定化している水田の畑地化を促すとともに、水稲と転換作物とのブロックローテーション体系の再構築を促すため、現場の課題を検証しつつ、今後5年間（R4年～R8年）に一度も水張りが行われない農地は、交付対象水田としない方針

新たな支援措置

◇地力増進作物への支援

・地力増進作物により土づくりを行う場合に、産地交付金のうち地域の取組に応じた配分として、2.0万円/10aを支援
・水田収益力強化ビジョンにおいて、都道府県・地域としての地力増進作物の活用目的を明確に位置づけた上で、具体的な対象作物や要件を設定

◇新市場開拓用米の複数年契約加算

・新市場開拓用米の複数年契約加算(1万円/10a)の取組に対する支援を新たに創設
(令和4年産から締結した3年以上の契約であること)

支援内容の見直し

◇飼料用米・米粉用米の複数年契約加算

・複数年契約の取組率が約９割に達していることから、経過措置として、令和2年・3年からの継続分のみを対象に、令和4年は6千円/10aを支援

◇高収益作物畑地化支援

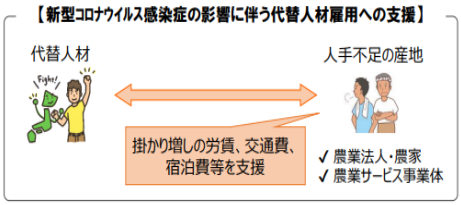
・高収益作物による畑地化を加速させるため、単価を見直し
★高収益作物　17.5万円/10a
★その他作物　10.5万円/10a
（畑地化（交付対象水田から除外）した年１回限りの支援）
（団地化や畑地化後５年間の継続作付等の要件を満たす必要）

◇多年生作物（牧草）への支援

・多年生牧草について、当年産において播種を行わず収穫のみを行う年は、交付金の単価を見直し
★播種～収穫を行う年・・・・・・・・3.5万円/10a
★収穫のみを行う年・・・・・・・・・・・　1万円/10a

農業労働力確保緊急支援事業の対象期間が延長されました

新型コロナウィルス感染症の影響で、人手不足となった農業経営体を支援する「農業労働力確保緊急支援事業」について、事業対象期間が延長になりました。



農業労働力確保緊急支援事業の対象期間延長
2022年3月末→2022年6月末

Q&Aなどの情報はこちらをチェック！
農林水産省HP
URL：https://www.maff.go.jp/j/new_farmer/roudouryokukinkyukakuho/roudouryokukinkyukakuho.html

相談窓口の設置状況はこちらをチェック！
全国農業会議所HP
URL：https://for-farmer.jp/

【お問合せ先】全国農業会議所
サポートセンターフリーコール　0120-150-055
メールアドレス　info@for-farmer.jp

全47都道府県の「うちの郷土料理」が勢ぞろい！

関西
三重県
滋賀県
京都府
大阪府
兵庫県
奈良県
和歌山県

季節検索　**種類検索**　**50音検索**

いろいろな方法で検索ができます

農林水産省では、地域固有の多様な食文化を保護・継承していくため、「**うちの郷土料理～次世代に伝えたい大切な味～**」として、情報発信を行っています。

各郷土料理の解説やレシピも掲載していますので、ぜひ作って食べて次世代への継承にお役立てください。

詳しくは　https://www.maff.go.jp/j/press/shokuhin/wasyoku/220329.html

農福連携とは、農業と福祉が連携し、農業経営の発展とともに、障害者の農業分野での活躍を通じて生きがい等を創出し社会参画を促す取組です。

農業者の方は労働力不足の解消に、障害福祉事業所は障害者の方のさらなる就労支援につながることが期待されます。

兵庫県では、農福連携の推進に向け　各事業者に以下の支援を行っています

農業者の方への支援

- ●農福連携マッチングを支援
  （農業サイド窓口を設置し、コーディネーターが対応）
- ●農場等での障害者受入インターンシップを支援
- ●農業者向け農福連携研修会を開催
- ●農福連携の取組事例の収集や発信、紹介等

障害福祉事業所への支援

- ●事業所職員向け農作業研修を開催
- ●事業所へ農福連携支援アドバイザーを派遣
- ●農福連携マッチングを支援
  （福祉サイド窓口を設置し、コーディネーターが対応）
- ●加工製品の高品質化、新規製品製造のための設備整備費を補助
- ●農産品生産に必要な農器具等の購入費を助成

兵庫県から委託を受けた下記の団体が農業者の方と障害福祉事業所のマッチングを支援します。
連携先の紹介や農福連携に関する相談等は下記までお問い合わせ下さい。

○農業サイド窓口 公益社団法人 ひょうご農林機構
（TEL：078-361-8131）

○福祉サイド窓口 NPO法人 兵庫セルプセンター
（TEL：078-414-7311）

農福連携案内チラシ（ひょうご農林機構のHPからダウンロードできます）

詳しくは
https://www.forest-hyogo.jp/work/01farm-5/noufuku.html

「NEW（乳）プラスワンプロジェクト」　＃牛乳料理部　のご紹介

農林水産省では、**#牛乳料理部**として職員等が自宅で牛乳・乳製品を使った料理をつくり、その写真等を（一社)J ミルクのTwitterアカウントで毎日つぶやくチャレンジをしています。

消費者の皆さまにおかれましても、**#牛乳料理部**へのご参加を通した消費拡大へのご協力をお願いいたします。

詳しくは　https://www.maff.go.jp/j/chikusan/gyunyu/lin/newplusone_project.html

兵庫の春の風景

茶畑（丹波篠山市味間奥）

丹波篠山茶は平安時代から栽培され約1200年の歴史があります

編集後記

我が家には４才になるペットのトイプードルがいます。４才と言っても人間の歳に換算すると30才くらいの元気盛りだそうです。育てかたが拙かったのか、散歩は喜ばないのですが、抱っこされて外に出るのは好きで、家族の誰かが「さぁ」と声をかけたものなら、何をしていてもすぐに飛びついてきて肩に乗る変わったワンコです。

そんなワンコでも親密な話をしている時は伏せをしてじっと話を聞いているみたいで、今は甘える時ではないとわかるみたい。こんな小さなワンコにも心配をかけないよう、毎日笑って過ごせる日々が早く来ることを願う今日この頃です。（Y.I）

地方参事官ホットライン

農政に関するご相談、事業や制度へのご意見・ご質問などがございましたら、お気軽に地方参事官ホットラインまでお問い合わせ下さい。また、広報誌に対するご意見等もお待ちしています。

TEL：078-331-5924　FAX：078-331-5177